

会 議 録

- 1 会議の名称 令和3年度第2回水戸市総合教育会議
- 2 開催日時 令和4年3月3日(木) 開会：午後3時57分 閉会：午後5時00分
- 3 開催場所 水戸市役所 4階 中会議室4

4 出席した者の職, 氏名

(1) 構成員

市 長	高 橋 靖		
教育委員会教育長	志 田 晴 美	教育委員会委員 (教育長職務代理者)	東小川 昌 夫
教育委員会委員	富 田 教 代	教育委員会委員	篠 崎 和 則
教育委員会委員	丸 山 陽 子		

(2) 事務局

市長公室長	小田木 健 治	市民協働部長	川 上 幸 一
福祉部長	横須賀 好 洋	教育部長	増 子 孝 伸
政策企画課長	宮 川 孝 光	総務法制課長	上垣外 泰 之
市民生活課長	白 石 嘉 亮	福祉総務課長	堀 江 博 之
総合教育研究所長	春 原 孝 政	教育部参事兼 教育企画課長	三 宅 修
学校管理課長	細 谷 康 之	生涯学習課長	湯 澤 康 一

5 傍聴人 なし

6 議題

- (1) 青少年のボランティア活動について

7 会議の内容

午後3時57分 開会

○高橋市長 ただいまから、令和3年度第2回水戸市総合教育会議を開会いたします。

教育委員会の皆様方には、大変御多用中のところ御参加いただきまして、心から感謝申し上げます。

本日は、今年度2回目の総合教育会議でございますが、議題を「青少年・若者のボランティア活動について」とさせていただきます。

本市におきましては、令和元年度に策定した水戸市教育施策大綱に基づき、基本理念である「水戸を愛し、世界で活躍できる人材の育成」の実現に向け、本市の特色を生かした水戸スタイルの教育をはじめとする施策の推進に取り組んでいるところでございます。

そのような中で、今回は大綱の基本目標8の社会に参画する若者づくりに焦点を当てております。

本市では、青少年・若者の豊かな人間性、社会性の育成を図るため、教育委員会において、高校生のボランティア活動団体である水戸市サブリーダーズ会をはじめ、ボランティアへ参画する青少年・若者の支援に取り組んでいるところでございます。

また、市民協働部においては、市内に数多く存在するNPO法人、ボランティア団体の活動の活性化を図るため、ウェブサイトの運営やイベントの開催等を通じた情報発信や団体間のネットワークづくりの支援を行っております。

さらに、福祉部におきましては、水戸市の外郭団体である水戸市社会福祉協議会に、ボランティア活動の拠点として、ボランティアセンターを設置し、活動を希望する市民と登録団体のマッチングを行うほか、初心者でも安心して活動に参加できるよう、ボランティアコーディネーターが相談に応じるとともに、必要な知識や技術の習得の支援等を行っております。

本市には、数多くのボランティア団体、NPO等の市民活動団体が存在し、福祉、環境、防災活動など、多くの分野において、活発に活動されており、本市としても、様々な場面において、ボランティアの皆様のお力を借りながら、協働のまちづくりを進めているところでございます。

ボランティアへの参画は、そこでしか得ることのできない経験や人との出会いをもたらし、未来をリードする人材への成長につながるものであるとともに、行政運営においても、多様化する地域のニーズを的確に捉え、柔軟に活動されているボランティアの皆様は、まちづくりを進めていく上で、必要不可欠なパートナーであると考えております。

本日は、本市の青少年・若者のボランティア活動のさらなる活性化に向けて、委員の皆様から忌憚のない御意見・御提案を賜りたいと存じます。

それではまず、お配りしております資料について、事務局から説明をいただきたいと思っております。

生涯学習課から説明願います。

○湯澤生涯学習課長 それでは、青少年・若者のボランティア活動について、お手元に配付してございます生涯学習課提出資料により、御説明いたします。

1の本市における青少年・若者のボランティア活動でございますが、本市では、中学校や高校など、それぞれのステージごとにボランティア活動が行える環境を整え、青少年の社会参加活動の促進を図っております。

(1)中学生のボランティア活動についてですが、アの水戸黄門漫遊マラソン給水ボランティアにつきましても、全市立中学校等16校、約650名の生徒が参加し、各給水所において、ランナーに対し

飲料水等の配布を行っております。

イの水戸の梅まつり中学生ボランティア「チーム魁」につきましては、全市立中学校16校に茨城大学教育学部附属中学校を加えた17校の生徒約200人が参加し、梅まつり期間中に借楽園を訪れる観光客に対し、パンフレットの配布や撮影補助等を行っております。

ウの五中ジュニアリーダーズにつきましては、会員数22名で年間10回程度の活動をしております。

主な活動といたしまして、夕涼みのつどい、堀原風の子まつり、渡里スポーツ大会などの第五中学区地域親ネットワーク主催行事の会場設営や進行補助等を行うほか、渡里小学校、堀原小学校の子ども会行事や渡里小学校PTA主催のお祭りなどの運営補助を行っております。

エの見川中ジュニアリーダーズにつきましては、会員数105名で、年間20回程度の活動をしております。

主な活動といたしまして、ふれあい祭りや三世代交流歩く会、見川見和商店会祭り、千波湖灯籠流し、市民センター祭りなどの住民の会や各種団体の主催行事の会場設営や進行補助等を行っているほか、子ども会行事の運営補助等を行っております。

オの国田地区青少年育成会ジュニアリーダーにつきましては、会員数21名で、令和2年度に組織されました。結成時は、国田地区夏まつりや市民運動会での活動を考えておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で事業が中止となっており、現在は、地域の環境浄化活動を中心に行っております。

カの水戸二中魁二の丸隊につきましては、会員数16名で、梅まつり期間に弘道館や水戸城大手門周辺を訪れる観光客へ史跡等の案内を行っております。

キの第四中学校及び常澄中学校につきましては、中学校が主体となって地域のお祭りや敬老会等のボランティアをその都度募集し、会場設営や進行の補助等を行っております。

次に、(2)高校生のボランティア活動についてですが、アの水戸市サブリーダーズ会は、会員数85名で、子ども会行事をはじめ、少年自然の家主催事業、成人の日式典、たこあげまつり、市立博物館特別展などに会員を派遣し、それぞれの事業の補助を行っております。

イの市内各高校のボランティア部ですが、各学校にボランティア部が設置され、高齢者福祉施設への慰問や募金活動、地域の清掃活動等を行っております。

また、総合教育研究所の次世代エキスパート育成事業におきましては、水戸第一高等学校や水戸第二高等学校の生徒にお手伝いいただき実施しております。みと好文カレッジのシニアパソコン教室におきましては、水戸女子高等学校の生徒にお手伝いいただいているところです。

(3)若者のボランティア活動についてですが、生涯学習課に事務所を置くみと青年会につきましては、会員数24名で、茨城大学の学生が中心となって、団体の運営や事業の企画などを自主的に行っております。近年は、夜梅祭や水戸黄門漫遊マラソンなどの演出補助にも力を入れており、そのほか、水戸芸術館等におけるキャンドルナイトの企画、水戸まちなかフェスティバルの工作体験ブースの出展などを行っております。

2の来年度の新たな取組についてですが、(1)市主催事業等の高校生ボランティアに係る窓口の一元化につきましては、イのイメージ図を御覧願います。

これまで、各課の事業に高校生ボランティアを依頼する場合には、各課が各高校と直接連絡をとり、依頼しておりました。各課としては、特に初めて依頼する場合、窓口の先生もわからず、依頼するのを躊躇してしまうこともあったかと思えます。

生涯学習課では、昨年度と今年度の2年間、教育長や部長にも同行いただきながら各高校を訪問

し、関係性を構築してまいりました。そのため、来年度からは、下の図のように、生涯学習課が市担当課と高校を結ぶ窓口となり、より多くの高校生の社会参加の促進を図っていきたいと考えております。主な活用例といたしまして、黄門まつりやまちなかフェスティバル、水戸黄門漫遊マラソンなどを考えております。

エの期待される効果といたしまして、高校生の社会参加の促進が図られるほか、市の事業に効率的に高校生ボランティアを依頼できるようになり、高校生の積極的な活用につながります。

また、各事業の活動修了者には、6ページに添付しております、活動証明書を発行いたします。

(2)高校生社会参加促進事業の実施(水戸市サブリーダーズ会)でございますが、水戸市サブリーダーズ会の会員が新規事業を積極的に企画・運営することで、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した活動機会の確保を図ってまいりました。また、高校生の主体性や積極性、自己肯定感を高めることを目的に、これまで実施してきた子ども会や親子を対象とする事業に加え、高齢者を事業対象とすることで、活動範囲を広げ、高校生の社会貢献につなげるとともに、コロナ禍で外部の人とのコミュニケーションの機会が減少している高齢者に活力を与える事業を展開してまいります。

子ども・親子向け事業といたしまして、①宿題お助け隊につきましては、今年度計画しましたが、中止となってしまったもので、小学生を対象に市内の図書館等において、夏休みの宿題の手助けを行う事業でございます。

②クリスマス創作活動につきましては、小学生の児童と保護者を対象に、自然素材を使ったクリスマスリースづくりなどのイベントを行うものでございます。

③サブかるたバーチャルガイドにつきましては、サブリーダーが作成したかるたに登場する、高校生独自の目線で選んだ人気スポット、例えば、ロマンス坂と呼ばれる水戸第一高等学校と水戸第三高等学校の間の坂や茨城県庁の展望デッキなどを紹介する動画を親子向けに作成し、視聴していただくものでございます。

高齢者向け事業といたしましては、①スマートフォン講座として、高校生がスマートフォンの使い方などについて高齢者に教えるものでございます。

②高齢者施設入所者向けオンライントークでございますが、高校生と施設に入所する高齢者をオンラインで結び、最近の出来事などの話をしたり、簡単な工作を一緒に行うなど、入所する高齢者が高校生と触れ合う機会を創出し、高齢者に活力を与えるものでございます。

③詐欺防止啓発マスクの作成・配布でございますが、高齢者が詐欺被害に遭わないための標語を高校生が考案し、マスクと一緒に配布するものでございます。

(3)みと青年会の活動の充実でございますが、みと青年会は、現代社会の中で青年の成すべき方向を追求し、地域に根ざす青年活動の発展を目的に組織され、それに賛同する有志により構成されております。現在の会員は24名と減少傾向にあり、その内訳も茨城大学の学生が21名、そのOBが3名と茨城大学に偏っている状況でございます。そのため、趣旨に賛同する青年を広く募集し、さらなる活動の充実を図るものでございます。

その方策ですが、①県内の大学における会員募集活動、②高校卒業者向けのPR活動、③水戸市サブリーダーズ会との連携の3つの施策を実施してまいります。

説明は、以上でございます。

○高橋市長 次に、市民生活課から説明願います。

○白石市民生活課長 続きまして、水戸市のNPO法人・ボランティア団体の支援について、市民生活課提出の資料により、御説明いたします。

1の本市の支援体制についてでございますが、本市では、市民と行政の協働によるまちづくりを推進しておりまして、水戸市協働推進計画や市民と行政との協働都市宣言に基づき、NPO法人・ボランティア団体等の活動の支援や団体間の交流の活性化に取り組んでおります。

主な施策としまして6つございます。

1つ目は、こみっとフェスティバルの開催でございます。こみっととは、かかわるという意味の英語のコミットと水戸市のみとをかけあわせたものでございまして、毎年2月にこみっとフェスティバルをイオンモール水戸内原にて開催しております。

例年、活動相談・交流コーナーや物販・体験コーナーの3つのコーナーを設置してイベントを開催しておりますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もございまして、展示や映像のオンライン開催としたところでございます。

2つ目は、市民活動情報ウェブサイト「こみっと広場」の運営でございます。各団体がウェブサイトを活用して活動内容の案内やイベントのお知らせ、団体の募集を行っております。ウェブサイトの登録団体は、現在101団体でございます。

3つ目は、市民協働会議室「こみっとルーム」の開設及び市民活動団体情報コーナーの設置でございます。水戸市役所本庁舎2階に市民協働会議室「こみっとルーム」を開設しておりまして、団体に無償で貸し出しを行い、講演会や打ち合わせ、セミナーなどを開催しております。

また、その近くに情報紙やパンフレットなどの情報コーナーを設置しているところでございます。こちらにつきましては、現在は、新型コロナウイルス感染症の影響で使用不可となっているところでございます。

4つ目は、地域円卓会議の開催でございます。こちらは、地域の課題解決に向け、地区会やNPO法人・団体の皆様と集い、特定のテーマについて議論を行っております。

5つ目は、水戸市版NPO法人・ボランティアガイドブックの作成でございます。お手元にガイドブックをお配りしておりますので、そちらを御覧いただきたいと思っております。

こちらのガイドブックにつきましては、茨城大学の学生ボランティアの皆様の御協力を得て作成したものでございまして、内容といたしましては、水戸市内の登録団体82団体の紹介を載せております。

6つ目は、協働推進員(ナビスタッフ)の設置でございます。

こちらは、水戸市役所の各課に、市民活動団体との連絡調整や協働推進などを行うナビスタッフを配置するものでございます。令和3年4月1日現在、74名を配置しております。

2の今後についてでございますが、各種団体の情報発信や団体の交流を促進するとともに、市役所職員の意識の醸成を図りながら、より一層の施策の推進を図ってまいります。

説明は、以上でございます。

○高橋市長 次に、福祉総務課から説明願います。

○堀江福祉総務課長 続きまして、福祉ボランティア活動の推進について、福祉総務課提出の資料により御説明いたします。

本市におきましては、すべての人がともに支えあい助けあう地域社会の実現を目指しており、水戸市地域福祉計画(第3次)に基づき、地域福祉を担う人づくりとして、未来をリードする子どもたちをはじめ、広く市民の福祉の心を育むために、市民の地域福祉活動への参加を促進しながら、福祉ボランティアの育成・支援に取り組んでいるところでございます。

1の水戸市福祉ボランティア会館の運営につきましては、社会福祉法人水戸市社会福祉協議会が

指定管理者として運営を行い、ボランティアの育成や相談、ボランティア団体の活動や市民の交流の場として、市民のボランティア活動の拠点となっております。

次に、2のボランティアセンターの運営及びボランティア活動の振興であります。福祉ボランティア会館内に設置しているボランティアセンターにおきまして、ボランティアを始めたい方などに、ボランティアコーディネーターが丁寧に相談等に応じ、ボランティアのマッチングなどを行っております。また、各種ボランティア事業の振興を図っているところでございます。

主な活動と実績について御説明いたします。

(1) ボランティア相談及び紹介につきましては、令和4年3月1日現在、ボランティア登録数が、個人135名、団体105団体、延べ4,207名、災害支援ボランティアは214名でございます。

団体サークルの詳細につきましては、別紙一覧に載せておりますので、後ほど御覧ください。

(2) ボランティアに関する広報啓発につきましては、紙媒体の情報発信のほか、SNSを活用した情報発信に努めているところでございます。

(3) ボランティア養成講座の開催につきましては、小学生や親子、若者が参加できるような講座を開催し、ボランティアの育成に努めているところでございます。

(5) 災害支援ボランティアにつきましては、災害発生時に被災地で活動するボランティアの登録を随時募集しており、令和元年の台風第19号の災害時には、こちらにかかわらず多くの高校生や大学生に御参加いただいたところでございます。

(6) 生活困窮世帯学習支援事業のボランティアでございますが、この事業は、生活困窮世帯の児童生徒に対し、市内4カ所で、居場所としての利用を含めた学習支援を行うものでございます。多くの学生に学習支援のボランティアとして御協力いただいているところでございます。

3の今後につきましては、引き続き、市社会福祉協議会をはじめ、関係団体等と連携しながら、ボランティアの育成や支援を通じた、福祉のこころを育む人づくりを推進していくことはもちろんでございますが、多様化するボランティアニーズに 대응していくため、教育部門や市民協働部門をはじめとする横の連携をより一層密にし、ボランティアが参加しやすい、継続できる環境づくりに努め、地域共生社会の実現を目指してまいりたいと考えております。

説明は、以上でございます。

○高橋市長 ありがとうございます。ただいま、3部門から水戸市のボランティア活動の現状等について説明がございました。

ここからは、いつものとおりフリートークとさせていただきます。教育委員の皆様のお忌憚のない御意見・御提案をいただきたいと思っております。

丸山委員。

○丸山委員 御説明ありがとうございました。質問なのですが、生涯学習課による窓口の一本化について、主に学生の活動を想定している印象を受けたのですが、こちらと福祉総務課のボランティアセンターでの相談対応とでは、どのような違いがあるのでしょうか。生涯学習課は対象が学生で、ボランティアセンターは大人向けということなのでしょうか。

○高橋市長 私もこれは大事だと思います。今日のテーマは、青少年のボランティア活動についてなので、この福祉のボランティア活動の中で若者が排除されるという話では、今日の議論にはならないのですよね。そういうところは教育委員会と福祉部門で連携はとれているのでしょうか。

湯澤生涯学習課長。

○湯澤生涯学習課長 今現在につきましては、連携が不十分な状況でございます。窓口一元化の事

業につきましては、来年度から高校生を対象に実施したいと思っておりますが、福祉部門とも連携をしながら進めていきたいと考えております。

○高橋市長 大人の人達が専門性を持ってかかわっているようなボランティア活動に、若い人たちを取り入れるということについて、福祉部ではどう考えていますか。

堀江福祉総務課長。

○堀江福祉総務課長 別紙に載せておりますが、現在、ボランティアセンターに登録されているサークルは105団体ございます。福祉ボランティアは、子どもから高齢者まで幅広いサークルに登録いただいております、サブリーダーズ会のような学生の団体も登録されています。福祉ボランティアは高齢化やサークルの固定化が一つの課題になっておまして、若者を取り込んでいくということが非常に重要だと認識しておりますので、今後、その連携をより深めていきたいと考えております。

○高橋市長 大切なのは、入り口の部分だと思うのです。私もこのボランティアの方々とはお付き合いがあるので、おおよそ分かっているのですがけれども、活動している方々は、高齢者の方が多いですね。どこも若い方々が必要なのですが入ってこないです。それぞれのサークル活動を見ても分かるように、専門性が非常に高く、皆さん様々な技術や知識のもとにやっただけではないのです。急に高校生のような学生が来ても、手話やシルバーリハビリ体操などはすぐにやれる仕事ではないのです。そこをどうするかなのだと思うのです。若い方々に、初めは難しくない、敷居が高くないようなボランティアの中に入れていただいて、一緒に活動をしていく中で、様々なことに興味を持てば、そのスキルを磨きたいと思うのではないのでしょうか。そういうことをやっていかないと、若い人たちは取り入れられないし、排他的な状態では活動したい若者の敷居を初めから高くしてしまうのです。それではお互いがマイナスになってしまうので、大人の団体と私たち行政がどのように敷居を低くして門戸を広げて、人を育てられるかを、生涯学習課と福祉の部門で連携して考えていかなければならないと思います。

東小川委員。

○東小川委員 説明ありがとうございました。

水戸の梅まつり中学生ボランティアが印象に残っていて、今から10年前、私が現役で教員をしていたときに、この話を持ち上げて、写真の撮影隊や偕楽園東門に立って中学生が案内するようなボランティアがスタートしました。今もこれが続いているということに非常に感慨深いものがあります。

当時は、市長からボランティアのジャンパーを買いたいという発言がありましたが、その後、ボランティアにはジャンパーが着せられたのでしょうか。

○高橋市長 はい。寄附金を集めて買いました。

東小川委員。

○東小川委員 中学生が、風が冷たい中、鼻水をたらしながらやっていたなという覚えがあるものですから、とても感慨深かったです。

今までの内容に関して、小中学生は、ボランティアの体験を通して社会参加の素地をつくるのが大事だと思うのです。いきなり点字や手話をやってみようというのは、小中学生には難しいことです。ボランティアってどんなことが喜びで、やってみるとこんな自己肯定感や達成感があったよということを積み重ねていく仕組みが大事なのだと思います。

以前、市外の小学校の校長をしているときに、自分の家の近くにいる高齢者のひとり暮らし、ま

たは夫婦だけのところに、小学生が定期的にお手紙を持ってお話をしにいくというボランティア活動を行った経験があるのです。学校から発出される文書や子どもが書いた手紙を持って、学校帰りや家へ帰ってから近所に行って、世間話をしながら学校楽しいかいとやりとりをすることを想定しました。

子どもたちは、それに参加して話をしたり、聞いたり、自分の近所にいるお年寄りってこんな人なのだよということを学級でも説明できるようになったという経緯がありました。

ですから、福祉にいきなり小学生がどうのというのは難しいとは思いますが、そういう素地づくりとして、身近なところから小中学生が取り組めるような仕組みがあると良いのではないかと思います。いきなり専門的なことをやるのではなく身近な自分の周りの高齢者とかかわっていくような体験も非常に良いのではないかと思います。

○高橋市長 学校では、総合的な学習の時間や道徳で、社会体験やボランティア活動といった学校の机上の勉強ではない授業があるのだと思うのですが、今の東小川委員の意見を踏まえて、今、学校でやっていることや今後目指すべきことは何でしょうか。

春原総合教育研究所長。

○春原総合教育研究所長 東小川委員のおっしゃるとおりだと思います。

現在、ちょっとボランティアということで、ちょボラ活動という名称で、学校の中で自分たちができるボランティアをする取組を進めている学校がたくさんあります。

また、高校生や大学生に様々な形で小中学校の中に入ってきていただいて、学校を支援する活動をしていただいています。子どもたちにとっても、そういった姿を見ることは、生き方を学ぶ機会になっているのではないかと思います。

本来、学校は学力を向上させるという目的もありますが、同じように人間性を育てていくということもとても大切だと感じています。

様々な場面で学校に高校生や大学生、大人の方が入っていただく、もしくは子どもたちが地域に出て行って、そういう活動にかかわらせていただくということは、とても大切な機会だと感じています。

○高橋市長 東小川委員。

○東小川委員 ありがとうございました。

ボランティアをやってもらうことで感じるのと、自分がして感じることはちょっと違うと思うのです。ボランティアを身近なものとして感じるための手だてとして、様々な方が学校に来て、自分の身の回りのことをボランティアで助けてくれる、さらにもう一步踏み出して自分もボランティアをしてみる、体験してみるということに軸足を置いてみてはどうかと思いました。

○高橋市長 私は年間を通して、地域の様々なイベントに行っています。例えば、敬老会や市民センター祭り、地域の市民運動会、そこで中学生が、中学生何とか隊という名前で様々な手伝いをしている姿を見るのです。恐らく、校長の姿勢なのか、担任の先生の姿勢なのか分かりませんが、教育委員会やそれぞれの担当課がこうしましょう、こういうのを推奨しましょうといっても、やはり学校現場の姿勢次第だと思うのです。どのように地域の中に入って、どういう経験をさせたいか、コミュニティの中で何を育ませたいか、それを現場の先生が考えないといけない。土曜日や日曜日にお祭りの手伝いに行かせるということもありますが、先生方もどういうことをやっているか見知らなければならないと思います。今は働き方改革といわれているので、あまりそういうことは無理強いできないですけれども、やはりその姿勢次第なのだと思うのです。地域で何を学ばせたいか、

どういふことならできるのか、自分たちにはどういふことがフィードバックされるのか、そういふある程度のスタンダードはつくって、学校現場の先生方に一つ一つ考えていただければありがたいなど、今の議論を聞いていて感じました。

春原総合教育研究所長。

○春原総合教育研究所長 市長のお話にもありましたが、学校がボランティアに出さないというのはあつてはいけないと思っていますし、地域でお声かけをいただいたときには、気持ちよく子どもたちを送り出していくような学校でありたいと考えております。

○高橋市長 篠崎委員。

○篠崎委員 まず、今回の資料を見せていただいて、こんなにたくさんの団体がボランティア活動をしているということが分かって驚きました。このガイドブックに載っていないような団体もたくさんあると思います。

お聞きしたいのは、普段からこういうボランティア団体がどういふところにあつて何をしているかというのを、各部局でそれなりに把握しているのかどうかというところなのです。なぜかといいますと、おそらく、何らかの困りごとやニーズがあるところに様々なボランティアの活動があるのだと思いますが、もしかすると、その中で市が本来の事業として予算をつけるべきところがあるとしたら、何らかの検討をしていただかなければいけないでしょうし、あるいは関連の事業を行う上でのヒントになることもあると思います。逆に今まで予算をつけていたものでも、もうボランティアが育つたので必要ないというところもあると思うのです。そういつたところを連携して引き継いでいくためには、普段からある程度、情報を把握する必要があると思いました。

そういう意味で、どのくらい把握しておられるのかお聞きしたいと思います。

○高橋市長 これはこみっと広場やフェスティバル関連なので、市民協働部の白石市民生活課長、お願いします。

○白石市民生活課長 ただ今、市長からお話がありました、こみっとフェスティバルにつきましては毎年開催しているものでございます。また、市民協働事業といたしまして、各部課に協働推進員を配置し、水戸市でどういふ団体が活躍しているか各部課の連携により情報を共有しているところでございます。こみっとフェスティバルの開催につきましても職員間で情報共有を行ったところでございます。

○高橋市長 ボランティアの周知について、福祉部では何かコメントはありますか。

堀江福祉総務課長。

○堀江福祉総務課長 ボランティアセンターに登録しているサークルにつきましては、横のつながりとして、水戸市ボランティア連絡協議会があります。

また、ホームページ等にもそれぞれの活動内容を掲載しておりまして、どういつた団体がどのような活動をしているか、常に把握に努めているところでございます。

相互間の連携についてははまだ弱いところもございますが、社会福祉協議会では特に若者に情報を発信するため、フェイスブックやツイッターなどのSNSも活用して、より連携を深めていこうという取組も始めております。

○高橋市長 水戸市でも、水戸黄門漫遊マラソンや黄門まつり、みとフェスで多くのボランティアを必要としていますよね。担当の商工課やスポーツ課はどのようにボランティアを集めているか、生涯学習課では把握しているのですか。

湯澤生涯学習課長。

○湯澤生涯学習課長 水戸黄門漫遊マラソンにつきましては、協賛企業や市内の高等学校、その他各種団体にこちらからお声かけをさせていただいています。高校生につきましては、陸上競技団体からも陸上部の生徒に声かけをさせていただいて集めているところがございます。他にも、スポーツ課が窓口となり、個人的に申し込んできている方がいる状況でございます。

中学校につきましては、学校長会を通して、給水のボランティアをお願いしているところがございます。

○高橋市長 何らかの仕組みは持っているのですね。その縦と横の連携が大切ですね。さらに皆さんに様々な情報が共有されるように、縦ぐし、横ぐしの連携を広めていきたいと思います。そうすることでボランティアにかかわろうという人たちの裾野が広がっていくと思いますので、篠崎委員がおっしゃったように、情報共有をどのようにするか、それぞれの課で仕組みを整えていただいて、若い人たちが参加しやすいようにしていただきたいと思います。

富田委員。

○富田委員 私も、今日の資料を見ながら、105のボランティア団体があるということで、水戸市はボランティアのまちなのだなと感じました。

私が中学生のときに、偕楽園の梅まつりで、大きなかごを背負ってごみ拾いをやったことを思い出しました。今考えれば、あれもボランティアだったと思いますけれども、割と印象深く残っています。

青少年と若者のボランティア活動は、小中学校は先生方が一生懸命やられているような感じがするのですが、やはり高校生と18歳以上は少し先細りなので、ここをもう少し充実させるといかなと思います。

特に、大学生以上の若者については、みと青年会の会員数が24名というのは少し寂しいし、もったいないと思います。こういう組織に入っているという方は、働いてない方だと学生さんだと思うのですが、就職活動で、ボランティアや社会活動に参画しているというのはとても評価を得られる部分だと思うのです。ですから、すごくいい取組をやっているから、もう少し宣伝してもいいのかなと思いました。

また、最後に活動証明書を出すというのも良いと思いました。これが特に小中高大学生にとってはとても意義があるものになると思います。やりっ放しではなく、きちんと証明してもらえというのは良いと思いました。

5ページのみと青年会の活動の充実については、大学生だけではなく、専門学校も市内にはたくさんありますから、全体的に声をかけてみたらどうかと思いました。

あとは、伝統ある名前なのかもしれないのですが、みと青年会というのがちょっと昭和のイメージがありますので、もう少し今どきの名前にしたら良いのではないかと思います。

社会福祉のボランティアについては、専門性を要するということがあるので、若い人に参加してもらうために、ジュニア部のようなものをつくって、養成していくというように、少し先を見据えた取組も良いかもしれません。そうすると、みと青年会等と連携して育つ可能性があるかと思しますので、大学や専門学校の入学式等に説明させてもらったりすると、入りやすいのではないかと思います。

他にも、人間関係などに行き詰ってしまった子が、全く違う団体に入って活力を取り戻すという例も、私はたくさん知っていますので、そういう子にとっても、様々な活動があるということを知らせていくのはとても大事なことだと思いました。

○高橋市長 小中学生は、私たち行政とのかかわりがあるので、校長会等を通して情報共有できると思うのですが、高校生や大学生になると、私たち行政と少し離れてしまうということで、専門学校生を含めて、その方々がこれからボランティアにもっと積極的にかかわれるようにするためには、どういう方策があるか考えていることがありましたらお願いします。

また、青年会という名前についても、確かに古いイメージがあるので、変えるのもいいアイデアだと思います。

湯澤生涯学習課長。

○湯澤生涯学習課長 ただいまの富田委員の御意見でございますが、専門学校等につきましては、私たちも考えが漏れていましたが、大変重要なことだと思いますので、今後、専門学校等を含めて、広く若者を取り込んでいきたいと思っております。

特に、今現在は茨城大学の学生やOBだけで偏った状況でございますので、全市的に広めていきたいと考えております。

また、名称につきましても、若者が入っている団体でございますので、その入っている若者に御相談して、より良い名前があれば、改称等を考えていきたいと思っております。

○高橋市長 彼らに考えてもらうのは良いですね。自分たちがどういう名前で活動したいかという考えもあると思いますので、ぜひ相談してみてください。

私たち行政と少し離れてしまっている大学生や専門学生等が、社会にどのようにかかわりを持つかということを工夫したほうが良いですね。選挙の投票率などにも一番あらわれます。18歳は高校生だから、学校を通して行政とのかかわりがあるから投票率が高いのだけれども、19歳の投票率はぐっと下がる。行政と疎遠になってしまうところほど、社会参画が少し薄くなってきてしまうので、その年代をどのように取り込んでいくか、工夫していただきたいと思っています。

福祉部門での若者の状況はどうか。堀江福祉総務課長。

○堀江福祉総務課長 今回は、社会福祉協議会の取り組みを紹介させていただいたのですが、資料の(3)ボランティア養成講座の開催ということで、若年とともに、小学生向けや親子向けの講座を開催しております。

委員の御意見のように、ジュニア部のようなものをつくってみることににつきましては、確かに有効だと思っておりますので、もう少し取組を深堀りしていきたいと思っております。

また、社会福祉協議会においては、令和2年7月に、常磐大学、常磐短期大学と連携協定を結びさせていただきました。福祉の分野も人材不足ということがありまして、ボランティアであったり、あとは社協のほうから授業に出張したりという取組を行っております。そこで大学とのつながりは少しずつできてきたと思っているのですが、中学生や高校生とのつながりはちょっと弱いところがありますので、教育部門の担当とさらに連携を深めて、より若者が参加しやすい仕組みをつくっていきたいと思っております。

○高橋市長 私も年間を通して、様々な団体の新年会や忘年会、総会等に呼ばれるのですが、特に青年部と女性部がある団体は活気があって未来を感じます。多くのボランティア団体で若い方々にも参加していただいて、すぐに専門的なことはできなくても、何かかかわりを持って、楽しみながら覚えていただくと良いのではないかと思います。最初から難しくせずに門戸を広げ緩やかに育てながら、興味を持ってもらった方が、そのボランティア団体にとっても、持続可能なものになります。若者にとっても社会性を含めて様々なことを身につけられる、そういうお互いにウィンウィンの関係を構築していきたいと思っておりますので、そういったところも各団体と話し合っ

工夫していただきたいと思います。

志田教育長。

○志田教育長 高校生のボランティアについて、水戸市サブリーダーズ会には85名しかいないのです。県立と私立を合わせれば、県内でも高校生の数は多いと思うのですが、恐らく半分以上が市外から来ているお子さんかもしれません。各高校ではバラバラで活動はしているのですが、先ほど委員からもあったように、この事業に高校生が何人来ているのかと言われると、私どものほうでも全ては掌握できておりませんので、なるべくこちらで把握していきたいと思います。

また、地域によっての温度差は実際にあると感じておりますので、水戸市のイベントなどのボランティアを通して、水戸市のことをよく知ってもらい、郷土に愛着をもってもらったり、逆に市外に行ったときに水戸市のことをよく知らせていただきたいと思います。水戸黄門漫遊マラソンはかなりボランティアの数が必要だそうですが、42.195キロあるところに、水戸市の名所や史跡を見て、教育的な要素も入れながらボランティアをやっていただくのも良いのではないかと思います。

福祉のボランティアについては、研修が必要なものは適宜研修を行ってからボランティアに参加していただくということも考える必要があるかと思いました。

様々な御意見をいただきましたので、それらをもとに福祉部や市民協働部と連携しながら取り組んでまいりたいと思います。

○高橋市長 今日いただいた御意見は、全部大事なことなのですが、一つ大事なことは、私たち行政が若い人たちにボランティアを頼むときに、お金をかけずに自分たちが楽するために利用するのではなく、教育的見地をもって学ばせよう、学んでもらおうということだと思っております。これからは、先ほど教育長が言ったように、せっかくボランティアに来たのだから、何か経験して学んでもらう、そういうチャンスを与えながら、私たちも事業を効率的に進めていくと良いのではないのでしょうか。教育長の言葉から私もそう感じましたので、それぞれの担当課にぜひ今回の会議のことは周知していただきたいと思います。

ほかに何かございますか。

{「なし」と呼ぶ者あり}

○高橋市長 それでは、お時間でございますので、この辺で協議を終わらせていただきます。貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。

改めてまとめますが、水戸市では、「市民と行政との協働によるまちづくり」を推進しております。この取組を今後充実・発展させていくためには、これからの水戸をリードする青少年・若者が地域活動や各種行事等へ参加、参画する機会を拡充する必要があります。

そのためにも、教育委員会におきましては、教育長が中心となって、高校や大学等とのネットワークを生かしながら、青少年・若者の社会参加促進を積極的に進めていただきたいと思っております。

また、今回、御説明いただいたとおり、ボランティアについては、市民協働部、福祉部、教育委員会と3つの部に所管がまたがっているところであり、青少年・若者の社会参加促進を進めるためには、各団体の皆様と関係を深めることとあわせて、市の組織内においても、3つの部門がさらに連携を図りながら、さまざまな施策を展開していく必要があると感じました。

委員の皆様方におかれましても、さらにお気づきの点がございましたら、御教授いただきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第2回水戸市総合教育会議を閉会いたします。
お疲れ様でした。

午後5時00分 閉会